

自己評価結果公表

本園の教育・保育目標

しろの子こども園（保育園）開園から20年。研修で学び保育者の保育観をすり合わせしながら積み重ねてきた保育実践を基に、一人ひとりの子どもを大切に、自然の中で五感を刺激しながら感動を共有して遊び、生きる力を育てる事を念頭に保育を進める。

令和6年4月より幼保連携型認定こども園として一体的な教育・保育を行う。

当園の保育理念

- ①一人ひとりの最善の利益を考慮する
- ②人権の尊重を第一に考える
- ③主体性を尊重する
- ④積極的な子育て支援を行う

当園の目標

- ①健康で意欲的な子ども
- ②思いやり・やさしさ・がまんのできる子ども
- ③まわりの出来事に感動する子ども
- ④地域・丸岡を愛する子ども

重点目標

- ①幼保連携の特色を生かした教育・保育を行う
- ②乳児期はあたたかい人間関係の中で安心して過ごし自我の芽生えを大切にする
- ③幼児期は大人に見守られ、自然の中で仲間と繋がり、のびのびと遊ぶ中で自己肯定感を育てる
- ④園開放を定期的で開催し地域の未就園児の保護者を支えていく。また音楽会を通して世代間交流も図る。

評価項目の取り組み

教育・保育内容について

新型コロナウイルスが5類になったが乳児保育や、食事には慎重な保育を進めていた。

乳児（3歳児未満児）は担当性をとり、食事の際もマスクの着用せずに介助できるようになり「もぐもぐ・ぱくぱく」等、口の動きを見せることができたり、笑顔の職員を見ることで安心して食べたり生活・遊びができるようになった。

早朝や夕方の保育等、異年齢の子との合同保育もできるようになったので大きい子へのあこがれや、小さい子へのやさしい気持ちが育っている。

抱っこやおんぶ、食事等、通常の保育がとても大事な事であることを再確認した。

幼児クラスでは、夏祭り・運動会・山登り・散歩・地域のお祭り等ひとつひとつの行事を終えることで仲間意識や自己肯定感が育っている。

また年中・年長児は坂井市の歌を発表会に歌ったことで、坂井市の歌が好きになり自分の住んでる地域に愛着をもってくれたと思う。

教育・保育内容の保護者への周知

毎月、クラスだよりで保育内容やエピソードを披露したり掲示版に子どもの絵画を展示したり玄関に作品を置く事で、保育内容が伝わるようにしてきた。

連絡帳でのやりとりや保育相談・個人面談も行った。年長児については春は希望者、1月には全員の個人面談を行った。保護者の悩みを聞きながら支援をしたり小学校への不安を解消できるように努めた。行事毎に保護者の参加を呼びかけ、沢山の方の参加があり都度保育園を知ってもらうきっかけになった。乳児クラスは行事が少ないので、年度末に保育参観を開催し、保育士・栄養士・看護師も交わり育児や保育について話す時間を設けている。

給食と食育

毎月一回給食会議を開催し、アレルギー食、離乳食、体調不良時の対応、幼児食等検討している。特に食物アレルギーに対応するために細心の配慮を行なっている。乳児クラスでは食事の時間は連絡帳で朝の様子を確認し、子どもの給食時間を決める等なるべく美味しく残さず食べるための配慮をおこなっている。

幼児クラスでは、じゃがいもやさつまいもを園全体で栽培し、夏野菜は各クラスで栽培するものを決めて種まきから水やり、肥料、収穫をした。楽しみながら苦手な野菜が食べられる子どもでできた。生長の過程を見たり触れたりして遊びながら学ぶ経験をしていることを感じた。

職員同士の協力・連携

乳児クラス・幼児クラスは保育の内容がかなり違うので、週3回の連絡会で保育について報告し園全体で共通理解するように努めた。また、随時乳児・幼児クラス毎に会議を行なっている。子ども理解が保育の土台になるようにまたいろいろな見方がある事を知り自分の保育の見直しに役立つようにした。

記録は出勤簿と一緒にしておくことで報告を受けられなかった職員が目を通しやすいように工夫している。

研修

キャリアアップの研修を引き続き受けることで職員の保育の質の向上に努めた。

また、能登地震があり震度5弱を経験した。坂井市保育研究会の小さな命を災害から守るための研修を受け、引き渡し訓練も6月に計画している。

職員が楽しめる研修も計画した。保護者が講師になり美容の研修を受けたり体幹トレーニングも楽しく身体を動かして笑顔になった。

引き続き命を守る研修から楽しめる研修も計画していく

健康・安全・衛生管理への配慮

健康・安全面ではうがい・歯磨き・手洗いの習慣を引き続き図った。保育室はコロナウイルスが5類になった後も換気には気をつけた。マスクの着用は個人判断にしている。

コロナへの不安はあったがそれほどの感染はなかった。

今後コロナ以外にもインフルエンザ、手足口病他いろいろな感染症はでてくると思うので手洗いは丁寧にするよう指導している。

警察の方の協力を得て不審者訓練、消防署職員のAEDの使い方訓練も引き続き行う。

保護者、地域との連携と支援

父母の会では、夏祭り、運動会等の協力依頼をしている。園児と顔見知りになったり役員同士、職員と気軽に話せる場になり家庭での子どもの様子を聞く機会にもなった。

夏祭りにはコロナ以前は卒園生が多数参加していたが、今は4年生に夏祭りの招待状を送り、再会し成長を喜び合うようになった。園から招待状が届く事が本当に嬉しいとの声を多数聞く。今後も続けたい。

当園は、音楽会を年6回程度開催しているので近くのデイサービスのお年寄りを招待し、世代間の交流を図っている。講師もお年寄りの参加があることを想定して選曲し

てくださる事もあり毎回5～6人の参加がある。核家族でお年寄りとの関わりが無く
なってきたので今後も続け交流を深めていきたい。

城の町コミセン、坂井市文化祭に絵画の展示をし保護者に参加を呼びかけ成長を確認
したり保護者同士の交流にも繋がっている。

今後の課題

職員の職種によってまた保育経験年数によって一人ひとりの課題は違うが自己評価
で見つけた課題については、研修等で資質向上につとめ、園全体の保育の課題につい
ては今までとおり計画的に話し合いを重ね全職員が共通課題を持って改善に努める。

通年子どもが遊びを主体的にできるよう行事の時に偏ることのないように環境を整
えておく。

報告・連絡・相談を大切にしながら職員一人ひとりが自分の言葉、行動に責任を持ち
個人情報保持を忘れず園全体で共有しながら園児や保護者と向き合っていく。

社会福祉法人若葉会 しろの子認定こども園
園長 江澤 みゆき